

## 仙台城南高校 入学式

～ 328 名の新入生を迎えて ～

4月8日(土) すっかり桜が満開となった仙台城南高校で普通科特別進学スーパーコース7名, 特別進学アクティブコース45名, 総合進学コース167名, 科学技術科109名の新入生を迎え, 令和5年度入学式を行いました。真新しい制服に身を包んだ328名の新入生は, 仙台城南高校の一員として笑顔で新しい生活をスタートさせました。



### 学校長式辞 (要旨)

仙台城南高等学校 校長 伊藤 俊



仙台城南で学ぶにあたって敢えて二つの注文を行います。

一つ目は、グローバルな視点を持っていただきたいということ。二つ目は、共生（共に生きる）の視点を持っていただきたいということです。まず一つ目のグローバルな視点について。皆さんもご承知のとおり、グローバルという言葉は中学校の授業でも取り上げられ、技術の革新によって従来の国や地域といった物理的な垣根を超え、政治・文化・経済などが世界規模で拡大していく様子のことを指します。既に私たちの日常生活を振り返っても、日本人の食料の約72%、エネルギーの約90%は海外からの輸入です。逆に中国製の携帯電話の部品約50%は日本製とも言われています。国内には、留学生・技能実習生等250万人以上、人口比でも2%を越える外国人の方が暮らしています。世界はひとつであるというグローバルな視点を持たないと日本は成り立たないことから、未来を担う皆さんには大切な

視点と考えます。人とモノによる地球の一体化の実現は、約400年前の17世紀頃、スペインやポルトガルの船乗り達が、新大陸を目指したチャレンジから始まりました。彼らは、香辛料、絹織物など命の危険を冒してもわざわざ手に入れたい商品を目指して豊かなアジアや新大陸にやってきたのです。あれから400年、世界の富の拠点はニューヨーク、ロンドン、東京、上海などに移っています。そして今後は、世界中どこにいても、いつでも膨大なデータや情報、サービスが必要な時に必要分だけしかも簡単に誰でもどこでも利用できる環境になりつつあります。砂漠の真ん中のテントや草原のゲル、自宅のデスクが富の拠点になるかもしれません。大切なことは世界はひとつであるというグローバルな視点を持ち続けることです。

二つ目の、共生（共に生きる）の視点です。今述べたグローバルな視点を俯瞰してみると、民族・人種・宗教や価値観の違う人々とその違いを受け入れ、尊重し新たな関係性を創造する共生の視点が必然になります。身近に言えば、外国人との共存に限定されるものではありません。親・先生、先輩の言うことが理解できない。これも世代間のギャップという文化の違いが存在するからです。大切なのはこのような文化の違いを感じたら「ぶつかる」ことです。違いを感じて、コミュニケーションをとって相手を理解しようとするのが共生（ともに生きること）に繋がります。例えば、海外で食事の前にお祈りをするクリスチャンを目にしたとき、私たちは、自分たちが食事の前に「いただきます」と言葉を発しながら手を合わせる習慣を持っていることに気がつきます。異なる文化が交差するとき、初めて私たちは自国の文化を意識させられ、同時に、異なる文化に対して違和感を覚えることもあるでしょう。しかしこうしたとき、それぞれの文化に優劣をつけるのではなく、違いを理解して受け入れることが共生に繋がるのです。21世紀はグローバル化の時代と言われ20年が経ちました。地域紛争、地球規模での環境や生態系の破壊の危機、テロ、金融危機など、予測のつかない困難で複雑な課題が人類を襲うといわれてきました。今まさにウクライナへの軍事侵攻や新たなウイルスへの対応に苦慮している今の状況を踏まえると、私たちは迫っている困難な課題に向き合い、その解決に向けて取り組まなければならないことを実感できるのではないのでしょうか。宗教や文化や考え方の違う人々といかに共存してゆか。いかに快適に仕事をしながら暮らしてゆけるか。個々人が「グローバルな視点」を再認識し、「共生の視点」を持つことが何より重要と考えます。仙台城南高校3年間の学びの中で、「グローバルな視点」、「共生の視点」を是非身に付けていただきたいと考えます。教科科目、課題研究、研修旅行など全ての活動にそのヒントがあるはずです。特に今年度から、本校はWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）拠点校として、東北初の文科省の指定校となり、世界に繋がる行動力とコミュニケーション力を身に付けて、「グローバルな視点」を育みます。異文化を尊重する姿勢を学び「共生の視点」を身に付けます。皆さんが将来取り組むことになる、予想のつかない課題、答えがひとつではない複雑な課題の解決のために必要な力やヒントを与えてくれるはずです。「グローバルな視点」、「共生の視点」を是非手に入れてください。



### 新入生代表宣誓

普通科総合進学コース <sup>もり ほのか</sup> 森 歩花 さんが新入生を代表して「本日、入学を許可されました私たち一同は、仙台城南高等学校の教育方針に従い、校訓・校則をよく守り、仙台城南高校の生徒としてその本分を尽くすことを誓います。」と厳粛な雰囲気の中、堂々と宣誓しました。

## 新入生の抱負

《普通科 特別進学スーパーコース》

大野 哲平 さん（沖野中出身）

私は高校生活を始めるにあたり、あらためて自分の生活習慣や学習の計画を見直し安定した学習中心の生活を身につけていきたいです。中学校での私の生活リズムはとても不安定で、その日の学習時間を始めとする様々なパフォーマンスにばらつきが生じることがありました。そのため、高校生活では最適な食事、睡眠、運動、そして学習を心がけ、6人のすてきな仲間たちと共に、常に全力で過ごしていきたいと思います。



《普通科 特別進学アクティブコース》

安達 咲貴 さん（秀光中出身）

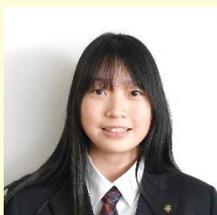
部活動をすることができ、更に勉強もしっかりできるのでこのコースを選びました。早い登校時間のため起床の時間を今までよりも一時間以上早めたり、部活動で疲れたり遅くなったりして家での勉強時間が減っても、授業内容をしっかりと聞いて、分からないことは積極的に先生に質問しに行ったりして家でできない分を補えたらいいと思います。三年間、城南生として悔いのない高校生活を送ってきたいです。



《普通科 総合進学コース》

森 歩花 さん（玉浦中出身）

私は、大学への進学をめざしているため、主に勉強に力を入れていきたいです。また、人との交流を大切にしていきたいと思っています。そのため、通学時間や家庭での時間など有効に活用し学習を進め、行事などには周りの人たちと協力しながら全力で取り組むなどメリハリのある生活を心がけ、様々なことを学んでいきたいです。そして、将来やりたいことを少しずつ具体化していきながら、三年間しかないこの高校生活を充実したものにしていきたいです。



《科学技術科》

井上 航大 さん（関上小中出身）

私の高校生活での抱負は、勉強と部活動の両立をはかることです。私は、中学校時代、勉強が苦手でした。そこで、高校では毎日の授業を大切に、集中して取り組みたいと思います。また、私の将来の夢はプロのバスケットボール選手になることです。中学校の試合では負けてばかりでしたが、高校ではバスケットボール部に入部し、毎日欠かさず一生懸命練習し、試合で活躍しチームに貢献したいです。勉強も部活動も両立させて、充実した高校三年間を過ごしたいです。



## 対面式・部活動紹介

4月10日(月)、新入生を迎えて2・3年生との対面式を行いました。コロナ禍でしばらく生徒が一堂に会しての集会は見送ってきましたが、久しぶりに全員がアリーナにそろいました。生徒会長の歓迎の挨拶の後は部活動紹介でした。それぞれの部は動画で活動内容を紹介したり、ステージで演奏や演技を披露しました。放課後には中庭で、部活動説明会が行われ、「どの部にしようか」と迷っている新入生に、先輩たちは積極的に入部の勧誘を行いました。

